

## 1 聞き逃してはいけない確認事項

まず全身状態を確認しよう！

①全身状態：飲める？      ②泣き声

すぐ受診が必要と考えられる状態

- |  |  |
|--|--|
| <p>①全身状態（哺乳力・活動性など）がよくない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 顔色が悪い</li> <li><input type="checkbox"/> しんどそう</li> <li><input type="checkbox"/> 母乳・ミルクを飲まない</li> <li><input type="checkbox"/> 腹部などどこかを触ると極端に泣く</li> </ul> | <p>②泣き声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> いつもと違って、弱々しい泣き声</li> <li><input type="checkbox"/> いつもと違って、泣き声が甲高い、かすれるなど</li> <li><input type="checkbox"/> 時間をおいて時々強く泣く</li> </ul> |
|--|--|

## 2 家庭看護力を高めるためのアドバイスや対応

## 【1】相談員が理解しておくべき基礎知識：泣きやまないときの対処方法

## 異常を確認

- 0～1歳児では、裸にして身体中に腫れ・締めつけの箇所や打撲の跡などがないかを調べます。
- 2歳以上であれば観察します。異常がなければ次に体温を測り、38℃以上の熱があれば、涼しくして水分を補給します。38℃未満であれば、病気ではないと安心できるので、気分転換に切り替えます。

## 親への共感

- 何をしても子どもが泣きやまない状況は、親にとってはとてもつらいものです。「親として失格なのではないか」など、周囲が考えている以上に心理的に追い詰められていることもあります。そうしたつらい状況を誰かにわかってもらうことは、親にとって大きな支えになります。支持的・共感的に話を聴き、対応することが大切です。

### 気分転換

- 周囲の大人の表情をなごませて、哺乳する、抱く、あやす、話しかける、さする・手を握って添い寝するなどを試みてみましょう。
- うつぶせにさせて遊ばせる、おくるみで包んであげるなどでも落ち着くことがあります。
- 部屋を出る、屋外に連れていく、ドライブに行くなど心地よい振動で泣きやむこともあります。
- 早く泣きやませようとして、強く揺さぶらないことは大切なことです。

### 泣きやまないとき

- 泣きやまなくても問題はありません。誰が悪いわけでもありません。
- もし泣きやまないことにイライラしそうなときは、赤ちゃんを安全な場所に寝かせて、その場を離れ、自分がリラックスしましょう（例：隣の部屋で読書をする、友達と電話や SNS をする、スマートフォンで楽しむなど）。少ししたら（長時間の放置はいけません）、戻って赤ちゃんの様子を確認しましょう。



## 【2】保護者にわかりやすい説明の仕方

### 泣きやまないことについて

- 赤ちゃんは言葉で伝えることができないので、何か訴えのあるときや寝言でも、泣き声になります。生後数か月が経つと、自己主張も少し出て周囲の人へ訴えようとして泣きはじめ、泣いているうちにどうしてよいかわからなくなることもあります。
- 泣くようなきっかけがあり怒ったように泣く場合や、普段と変わりなく泣き出し、泣き声や泣き方がいつもと同じか多少激しい程度であれば、からだの異常を心配する必要はないでしょう。真っ赤な顔をして泣いていたり、泣き方に勢いがあるときも、元気な証拠です。